

要 望 書

四日市港霞ヶ浦地区北埠頭 81号岸壁の新規事業化について



霞ヶ浦地区の利用状況

令和2年10月26日

四日市港霞ヶ浦地区北埠頭の整備を進める会

平素は、四日市港の整備推進に関し、特段のご高配を賜わり厚く御礼申し上げます。

近年、四日市市周辺地域では、新名神高速道路の開通や東海環状自動車道の整備が進み、四日市港を利用する多くの立地企業とを結ぶ道路ネットワークが充実したことで物流の大幅な効率化が図られ、新たな企業進出も進んでいます。また、今年度は北勢・中勢バイパスを繋ぐ鈴鹿四日市道路が新規事業化されるなど、港への道路アクセスがますます向上し、物流拠点として一層の飛躍が期待されています。

港湾物流では、東南アジア航路を中心に外貿コンテナ取扱量が着実に増加しており、コンテナ船の大型化も進んでいることから、そうした状況に対応した新たな岸壁整備が求められています。

また、完成自動車の輸出、移出入やエネルギー関連貨物としてバイオマス発電燃料の新規取扱、石油化学製品の原材料等バルクについても増加しており、生産能力の増強に伴い更なる増加が見込まれていることから、港湾機能の強化が求められています。

一方、港湾機能では南海トラフ地震など大規模災害に備え、素材型産業が多数集積する背後圏を有する港として、サプライチェーンの中心となる幹線貨物物流機能の維持に向けた耐震強化岸壁の早急な整備が求められています。

今後も、四日市港が地域の暮らしを守り、背後圏産業の発展を支えていくためには、霞ヶ浦地区の貨物取扱機能の集約による高度化・効率化及び災害対応力の強化が必要不可欠です。

つきましては、かかる実情をご賢察のうえ、下記の事項について、特段のご高配を賜わりますようお願い申し上げます。

記

- 1 四日市港霞ヶ浦地区北埠頭へのコンテナターミナルの集約・機能強化、並びに災害対応力の強化を目的とした新たな耐震強化岸壁（W81）について、令和3年度に新規事業化すること。
- 2 南埠頭、北埠頭に分散しているコンテナ取扱機能を北埠頭へ集約し、南埠頭における完成自動車、エネルギー関連貨物の再編・拠点化を図り、利便性を向上すること。

四日市港霞ヶ浦地区北埠頭の整備を進める会 会長 種橋 潤治

四日市港における現状

1) 地域を支える物流機能

四日市港の背後圏には、自動車関連産業、産業機械等の製造産業、化学薬品等の素材加工型産業が数多く立地しており、コンテナ貨物取扱量の7割を占めるなど、地域産業を支える重要な役割を担っている。

2) 港湾と道路ネットワークの連携

近年、新名神高速道路や東海環状自動車道、北勢バイパス等の道路網のインフラ整備により、輸送時間の短縮など利便性が向上しており、背後圏物流が拡大するとともに企業立地が進展している。

3) 東南アジア生産拠点との取扱貨物量の増加

近年、背後圏立地企業の多くが、海外生産拠点を東南アジア諸国に展開しており、原材料の輸入や製品・基幹部品の輸出などコンテナ取扱貨物量の増加や、コンテナ船の大型化が進んでいる。

四日市港における今後の課題

1) コンテナ船の大型化に対応した港湾機能の不足

コンテナ船の大型化が進んでいる中、必要水深を満たす岸壁が不足しており、航路サービスの充実が図れない。

2) 災害時における物流機能の確保

コンテナターミナルの耐震強化岸壁が未整備であるため、南海トラフ地震等大規模災害が発生した際には、港湾物流機能が停止し、背後圏産業や経済活動に甚大な影響を及ぼす。

3) 完成自動車・バルク貨物の取扱機能の強化

自動車メーカーの工場再編による生産台数の増加や輸送拠点機能の拡充、コンビナート企業の原材料の輸入増加やバイオマス発電燃料等、新たなエネルギー関連貨物の輸入増加に対応したバースやヤードが不足している。

霞ヶ浦地区の利用状況



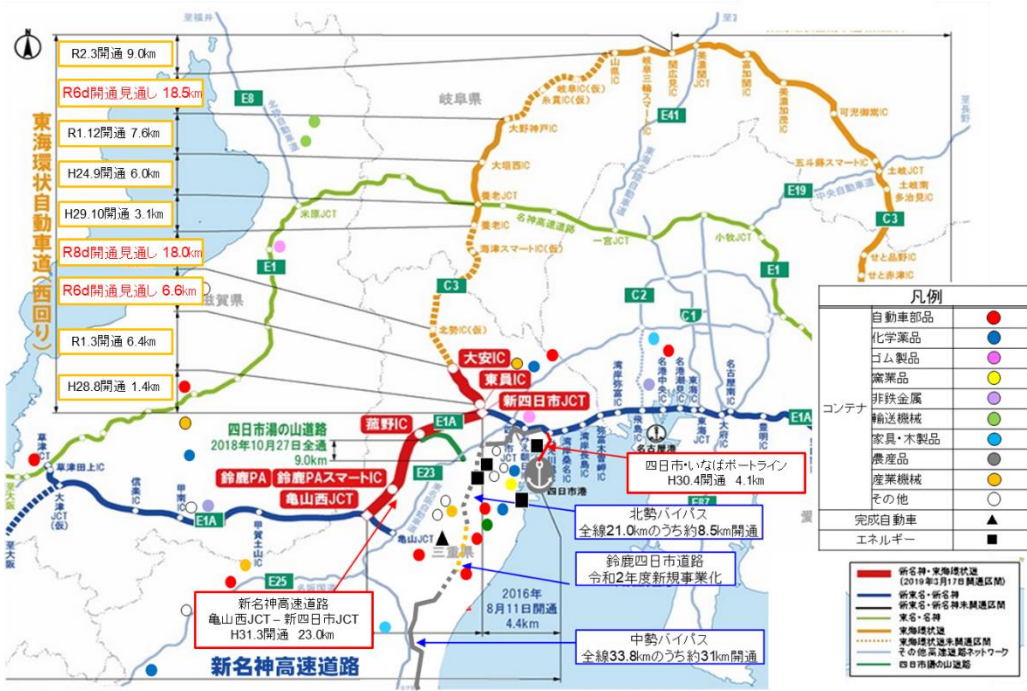
W80 岸壁荷役状況
(コンテナ船 SEASPAN EMINENCE)



W24,W25 岸壁荷役状況
(自動車運搬船 あさか、さやま)



ますます便利になる背後圏の道路ネットワーク



北ふ頭における耐震強化岸壁(W81)の令和3年度新規事業化を!

【整備効果】

- コンテナ取扱量の増加や船舶の大型化、寄港サービスの強化
- コンテナ取扱機能の北ふ頭への集約による物流機能の高度化・効率化
- 耐震強化岸壁の整備によるサプライチェーンの強靭化、災害対応力の強化

